

他証ナクモ特ニ是ノ計算書ニ憑據シテ充
分ノ保証ヲナスベシ

治罪律第四百十五條ニ從テ及逆一揆暴動等
為ニ訊鞠セシメテ決ヒハ裁判局ハ速カニ投

事トシテ以テ直ニ鞫問ヲ令スル歟或ハ

特法ニ從テ上第三百六十條ニ據ル如ク犯罪

ニ因テ誘導セル直接又間接ノ損害及暴害ノ

鎮壓平穩ノ恢復ニ涉リ使用セル諸經費等該

被告ニ関スル贖金ノ保存財產ヲ所ニテ罪四ノ

元ニ着手スヘシ此ノ故ニ裁判局ハ其狀況

ニ依リ被告所有動産ノ全部或ハ一部ヲ質ト

シ或ハ押留スヘク之カ為ニ他人既得ノ權_他

既ニ該財產ヲ所_{既ニ該財產ヲ所}ノ妨ケ或ハ被告ノ養育ス

ルニ無事ノ妻子兄弟等ノ糊口ニ於テ害スル

所ナケレハ自ラ前法ヲ施行スル次或ハ該局

ノ原律ニ從テ民事判事ヲシテ之ヲ施行セシ

ムベシ但此ノ際必ス理財委員ヲ引テ事ヲ共

ニスレ以上ノ着手ハ該犯ニ因テ更ニ損害

ヲ受クル所ナク隨テ贖金ヲ要セサルハ明

白ナルニ非レハ廢止スル能ハス

此ノ如キ財産ノ押留ハ通常罪科ノ裁判ニ至
 マテハ停止スルコトモトモ雖捜査計鞠ノ間其
 状況ニ從テ押留財産ノ数量ヲ増減スルコト得
 ハシ又治罪律六十四條及六十五條ニ準シ被
 告及投亭ハ是等ノ條件ニ涉リ裁判局ノ處断
 ヲ請求シ或ハ不服トシテ上等級裁判ニ控訴シ
 其レニ由テ處断ノ變更スルコトアレハ大審院
 ニ控訴ナルノ權アリ訊鞠既ニ決シ被告若刑
 ヲ蒙ラサレハ裁判局ハ財産ノ押留ヲ解
 ハテ若シ其ノ罪上ノ三罪中ノ一二ニ處ルハ

該犯罪ノ處断ニ因リ又ハ治罪律第三百六十
 二條ノ定規ニ基テ處断セル贖宥金ニ涉ル財
 産押留ノ期限ヲ倍達スベシ

平田東助譯

澳國法律集第十七卷二千二百二十七号抄譯

千八百五十四年十月五日司法省布令

該布令ハ千八百五十四年十月四日ノ制

トテ得又逆一揆暴動ノ罪ヲ犯スニ會シ

定律ニ照準シ該ノ財産ヲ收メテ贖害

全テ臨時保存スヘキ事務ヲ規定ニ係ル

千八百五十二年三月二十七日ノ刑法第五十九

條(本書ノ千七百七十号ニ見ユ)又千八百五十三年

七月二十九日ノ治罪律第三百六十條(本書ノ千

六百八十三号ニ見ユ)ニ於テ又逆一揆暴動罪

ヲ得ル者ハ該犯ニ因テ政府及人民ニ對シ誘致

セル損害償贖ノ責ニ任スヘキ規律ノ確定ニ涉
 リ千八百五十四年十月四日ノ勅決ヲ以テ既ニ
 以上ノ治罪律ヲ實施セル帝領ニ於テハ現今癸
 スル所ノ規令ヲ布告スルノ後直ニ次ノ規程ヲ
 履行スヘキ又將來該治罪律ノ施行ニ涉リ期限
 アル帝領ニ於テハ又其期日ヨリ該規程ヲ履行
 スヘキノ旨ヲ制定セリ

治罪律第百四十五條ニ從テ及逆一揆暴動等ノ
 為ニ訊鞫セシメテ決セハ裁判局ハ速カニ檢
 事トノ協議ヲ以テ直ニ鞫問ヲ令スル狀或ハ

特法ニ從ヒ上第三百六十條ニ於ル如ク犯罪
 ニ因テ誘導セル直接及間接ノ損害及暴害ノ
 鎮壓平穩ノ恢復ニ涉リ使用セル諸經費等該
 被告ニ課スル贖金ノ備存裁判所ニテ罪因ノ
 ナルニ着手スヘシ此ノ故ニ裁判局ハ其狀況
 ニ依リ被告所有動産ノ全部或ハ一部ヲ質ト
 シ或ハ押留スヘク之カ為ニ他人既得ノ權他人
 既ニ該財産ヲ所有シテ妨ケ或ハ被告ノ養育ス
 ヘキ無辜ノ妻子兄弟等ノ糊口ニ於テ害スル
 所ナケレハ自ラ前法ヲ施行スル狀或ハ該局

ノ原律ニ拠テ民事判事ヲシテ之ヲ施行セシ
 ハベシ(但此ノ際ハ不理財委員ノ行テ事ヲ共
 ニスヘシ)以上ノ着手ハ該犯ニ因テ更ニ損害
 ヲ受クル所ナク随テ贖害金ヲ要セサルコト明
 白ナル非レハ廢止スル能ハス
 此ノ如キ財産ノ押留ハ通常罪科ノ決判ニ至
 トラハ停止スルコトナレト虽検査評鞠ノ間其
 狀況ニ從テ押留財産ノ数量ヲ増減スルヲ得
 ヘシ又治罪律六十四條及六十五條ニ準レ被
 告及按事ハ是等ノ條件ニ涉リ裁判局ノ處斷

ヲ請求シ或ハ不服トシテ上等裁判ニ控訴シ
 是レニ由テ處斷ノ変更スルコトアレハ大審院
 ニ控訴スルノ權アリ訊鞠既ニ決シ被告者刑
 蒙ラザル中ハ裁判局ハ財産ノ押留ヲ解ク
 ヘク若シ其ノ罪上ノ三罪中ノ一ニ處ル中ハ
 該犯罪ノ處斷ニ因リ又ハ治罪律第三百六十
 二條ノ定規ニ基キ處斷セル贖害金ニ涉ル財
 産押留ノ期限ヲ告達スベシ

番言言

九
痛
省